創世記6-8章　　　　　　　5/29

担当：五マ

【あらすじ】

＜６章＞地上には悪がはびこっており、神、心を痛める。しかしそんな中ノアだけは神を信じていた。神、ノアに箱舟づくりを命ずる。次回洪水起きる。

＜7章＞大　洪　水。

＜8章＞大洪水がおわり、鳥を放って外に出られることを確認した後ノアは生贄をささげる。神、後悔。

【問い】

・２種類の文章が混ざっているのはなぜ？編者の意図は？

（P伝承とJ伝承が混ざっている）洪水の日数･箱舟に入れられる動物の数（6章20節/7章2節）

マ：下記参照。なぜ複数の文章を混ぜたままにしたのか？これは物語としてみなすべき。

け：数字に食い違いはあれ、主軸は同じ。

ツ：別々の時代背景から生まれた文章を組み合わせたことは、両方が補足しあって成立している。どちらの伝承が正しいか判断がつかない。

滝：どの部分がどの伝承のものなのか、もはや判別がつかなくなっている。より多角的に神を見つめることができる。

・契約をする必要について？

マ：今まで契約という言葉は使われていない。

う：神から人間へ謙って近づいている。愛。

ハ：６章１８節での契約は、「契約」というより「忠告」では。

最近の次長課長の河本母の生活保護受給の件に関して、ここでの契約と人と国との関係の契約を考えてみよう。

滝：契約は線引き。

ツ：契約は命令の意味合いが強いが、結局は人間を救おうとする意図が見られる。

T：６章のほうはやはり「言いつけ」といった感じが強い。人間に判断の余地がある。神ならオートマチックに動かすこともできたのでは。国と人との契約について、憲法などに記されている契約よりも、所与の社会体制に従属すべきという認識のほうが強いという考えがある。

☆神は人間に愛想つかしたのか？ノアの一族に神は期待していない？幼い時から悪⇒性悪説？

＜チャット体で＞

ハ：神の言うとおりじゃね？

け：うん。

ツ：めんどくさいことはしたくないのが人間。それが効率化へつながる。その過程は性悪説と性善説どちらともとれるよね。

五：神のいう悪とは神から離れることを言うんじゃないですか？

う：ローマ書１章に神の言う悪について考察があるから読んでみてね。

マ：じゃあノアは性善なんですかね？

け：カインやアベルみたいに言い訳をしない点で善だよね。

・結局、大洪水によって悪を消し去ることはできたのか？

ハ：消しきてないよね。

う：うん。だからイエス様が現れた。

け：ノアだけを残したことには意味があるの？

S：ノアは純粋で神の言うことを残したから助けただけ。

・今後大洪水がないなら神を信じないのではないか？それでも信じるかい？

・ノアはなぜ生贄を捧げたの？

マ：自分以外の人間、友達を殺した神に生贄を捧げるのはなんで？

S：自分だけ救われただけでもありがたいと思えよ。

T：ノアを方舟で孤立させることでより神への帰属意識を高めたんじゃ・・・

け：純粋に神を畏れ多い存在とみなしているから、ノアの感情は関係ない。

S：なぜ生贄という行為がうれしいの？焼いた生き物の臭いがいいの？

う：生贄を捧げるという行為の善悪は関係なく、神へ行う最上の行為として神は

みなしていたので、神の心に届いたの。

S：じゃあノアは穢れてたのかな・・・

ハ：踊りとか、いろんな形で神を感謝できるよね。

☆永遠に生きることは幸福か？

ハ：火の鳥読んだことないの？

マ：自分の大切な人間が死んでいくのが辛くないですか？

ハ：俺はただ科学の進歩や地球の行く末を見守りたい。

け：飽きたころに死にたい。

T：わがまま・・・www

ハ：不老不死になったら時間という概念がなくなるんじゃね？

け：自分が死んだあとの未来のダイジェストが知りたい。

S：周りの人間が死んだあとにどのコミュニティにも入れなくなって孤独になりません？

しかも研究所とか入れられて・・・

T：幸せかどうかの話ですよね・・・www

S：幸せってなんなのかな・・・

マ：俺は意外と彼女とかつくらないで金だけを追い求めていくのが幸せかな。

T：それは違うんじゃないかな。幸せって、そういう在り方があるんじゃなくて、一瞬一瞬に幸せを感じている状態のことを言うんじゃないかな。

ハ：おしっこしてるときが一番の幸せ。神話的欲求とかいろいろあるんだけどやっぱり一番はね。おしっこだよね。

T：生き物としての欲求だけじゃなくて、文化的欲求のような目標作りのできる幸せの形も大事なんじゃ・・・

ハ：僕の恋愛観はね、「攻略」なんだよ。だから付き合い始めちゃったらつまらないよねww

け：俺は恋愛では「勝つ」ってことが大事かな。勝った負けたの中で幸せを感じれる。

T：いい買い物をしたときに感じる幸せがいいね。情報強者！・・・アイドルに関してはコスパとかは関係ないかな。

S：俺はサッカーでドリブルで相手を抜いたときしか幸せを感じないかな。

T：いいなあ。おれは運動で楽しいと思ったことはないや。

け：運動でも、誰かに認められた時とかに幸せ感じない？

S：け兄の幸せって「名声」じゃないですか？

マ：果樹園兄って誰かに喜んで貰えるのが幸せな人ですよね。

（時間があれば）天地創造から洪水を通して抱く神のイメージとは？

【豆知識】

旧約聖書の最初にある、創世記、出エジプト記、レビ記、民数記、申命記の5つは、「モーセ五書」と呼ばれています。出エジプトから約束の地に至るまでの、イスラエルの民の信仰の歴史が書かれており、イスラエルの救いの歴史の原点となっています。

ヤーウェ伝承 ＝ J 伝承（Jahwist　ヤハウィスト）

エロヒム伝承 ＝ E 伝承（Elohist　エロヒスト）

申命伝承 ＝ D 伝承（D-Quelle　デー・クヴェッレ）

祭司伝承 ＝ P 伝承（Priestershrift　プリースターシュリフト）

　　　　　　　（J、E、D、Pはドイツ語の頭文字です。）

1.ヤーウェ伝承（一番古い）

ソロモンの治世の晩年にできあがったもので、ユダ王国に伝えられました。エルサレムの思想を反映しています。

2.エロヒム伝承（前9世紀か、8世紀）

ヤーウェ伝承と並行した伝承で、北王国で伝えられました。北王国で活躍した預言者の懸念が反映されています。北王国が滅んだとき、北王国の祭司たちがユダ王国に逃げ、持ち込まれました。

前700年～800年に、ヤーウェ伝承と一緒にされます。

3.申命伝承（ヒゼキア王の時代）

申命伝承は、主に申命記に表現されています。エロフィム伝承に似ていますが、独立した伝承で、北王国ででき、北王国からユダに逃げてきた人々によって伝えられました。

4.祭司伝承（前4世紀）

ヤーウェ伝承とエロヒム伝承が融合してできたもので、バビロンに捕らわれて行った時代（これを「バビロン捕囚」と言います）に編集されました。バビロンに流された祭司たちの書いたもので、バビロン捕囚の悲惨さの中から、救いの歴史を見ています。